

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp

【まつやま里島ツーリズム連絡協議会】 平成25年度 豊かなむらづくり表彰 農林水産大臣賞



農政局長(前列左)、審査委員長(前列右)と記念撮影



協議会の取り組みを説明する田中会長

農林水産省が毎年度実施している豊かなむらづくり全国表彰事業において、「里島めぐり」など里島の活性化の取り組みが評価され、農林水産大臣賞を受賞しました。11日に中国四国農政局で表彰されました。表彰式終了後の意見交換会では、取り組みについて農政局幹部と意見を交わしました。

野志市長の命で、急きょ作られた表彰内容を島民のみなさんにお知らせするパネル。中島支所、興居島支所のほか、中島総合文化センターに掲示されています。

【松山離島振興協会】 平成25年度 地域づくり表彰 全国地域づくり推進協議会会長賞



全国地域づくり推進協議会会長から表彰される



事例発表する田中会長

国土交通省が1984年度から実施している地域づくり表彰において、忽那諸島の活性化の取り組みが評価され、平成25年11月13日に東京で開催された地域づくり全国交流会の中で表彰されました。協会の今までの取り組みについて事例発表するとともに、他の受賞団体と情報交換し、今後より一層の飛躍を誓いました。

忽那の民 トリプル受賞の 栄に浴す

田中会長の離島振興功労の個人表彰を含め、トリプル受賞となった忽那諸島での取り組みは、広報まつやま 12月15日号の2面の記事でも詳しくお伝えしています。

平成二十五年度、まつやま里島ツーリズム連絡協議会と松山離島振興協会、そして怒和島 上怒和地区の田中政利氏個人が、それぞれ国からの表彰の栄に浴しました。まず十一月十一日に岡山県の中国四国農政局で表彰式が行われたのが「豊かなむらづくり全国表彰」。農林水産省主催のこの表彰で、まつやま里島ツーリズム連絡協議会の活動が、栄えある農林水産大臣表を受賞しました。この賞は全国四位級の価値ある賞。最高賞は天皇杯と、栄誉この上ない表彰制度で、活動間もない団体の受賞は全国の注目を集めました。続いて同十三日に東京平河町の都市センターホテルで開催された「地域づくり全国交流会」の席上、全国各地域づくり表彰の各賞発表が行われ、松山離島振興協会は「全国各地域づくり推進協議会会長賞」を受賞しました。両会とも最高位受賞には及びませんでした。それぞれ全国で九団体、六団体の一つに選ばれ、日頃の活動を評価していただきました。

そして最後は田中政利氏の離島振興功労の表彰式が、十一月十八日に東京で開催されました。この表彰は国土交通省と日本離島振興協議会が合同で十年に一度行う個人や団体への離島振興の顕彰の機会です。離島振興法制定六十周年の本年、田中政利氏は最高位の国土交通大臣表彰を受賞しました。中島町時代から続ける地道な活動が評価の対象となり、表彰の栄に浴したものと思います。個人表彰はもとより、両会の長を務める氏にとってはまさにトリプル受賞となりましたが、氏曰く、「これは忽那諸島のみなさんでいただいた賞。みなさんが誇りに思い、みなさんで祝ってほしいこと」と。平成十八年設立の松山離島振興協会の活動が七年余、平成二十三年設立のまつやま里島ツーリズム連絡協議会の活動はまだ三年余、さらに長い道のりが必要な離島振興の活動には、島のみなさんの思いだけではなく、島外のみなさんの力添えが必要でしょう。島内外の力を結集すべく、両会はこれからも引き続き活動を持続し、活性化への道を歩みます。



『トリプル受賞祝賀会』2013.12.29(SUN)



一面でお知らせしました『トリプル受賞』の件、「めったにないことだ」と野志市長からお褒めの言葉をいただき、この誉れを広くみなさまと共有するべく、まつやま里島ツーリズム連絡協議会と松山離島振興協会の両会共同主催による祝賀会を開催いたしました。両会員はもとより、いつも私たちの活動に温かいご理解と惜しみないご協力をいただいているみなさま方をお招きし、大きな喜びを分かち合いました。

平成二十五年も押し迫った最後の日曜日、十二月二十九日の空は快晴。それまでの寒波は去り、穏やかな日差しの中、松山観光港ターミナルビル二階の『ベイクレール』には、中村愛媛県知事、野志松山市長、石崎汽船の一色社長、中矢常務などお祝いに駆けつけていただいた各界各方面のみなさまを含む九十人の仲間が集結しました。会場は開会前からすでにかなりの熱気を帯び、お祝いムードがムンムン。開会后、今回の表彰手続きを取りまとめた市企画政策課から受賞の概要が説明され、まずは野志市長、そして空港から直接駆けつけた中村知事からの祝辞を順に賜り、とりあえずの島流乾杯で喉を湿して、受賞者からのごあいさつ。続き、特別ゲストである丸の内朝大学の五人の美女たちによるお祝いトークを頂戴し、田中会長もご満悦の様子、宴はさらに舌気づいていきました。



忙しい公務の合間を縫って駆けつけてくれた知事と市長。それぞれに島としまびとへの熱い思いをメッセージ。誠にありがたい限りです。



その後は、各テーブルを市担当職員が回つてのテーブルトーク。あちこちで島談義が飛び交い、締め時間ギリギリまでマイクパフォーマンスは続きました。
宴の締めはやはり田中両会会長の役目。参加のみなさんにお礼を述べつつも、今後の忽那諸島の活性化に向け、「ともにがんばりましょう」の掛け声。ガンバロー・コールさながらの決起が、みな胸に宿る瞬間でした。
平成十七年一月一日の二市一町の合併から始まった新松山市の離島振興の取り組み。緒に就いたばかりの私たちの活動が、根を張り、枝を伸ばし葉を茂らせ、やがてはつぼみを付け花咲かせるまでには幾分かの時間を要することでしょう。その花が実を付け種を落とし、その種が芽吹くようになるには、長いスパンの計画とその計画を推し進める強いエネルギーが必要で。優れたリーダーは、仲間を信じ、高い理想を掲げ、熱い魂をみなに吹き込んでいく人財です。忽那諸島の各島にすばらしいリーダーが育つことを願い、取りまとめ役としての松山離島振興協会は、引き続きその役目を果たしていきたいと思っております。

忽那諸島の離島振興の歩みに明るく光し

忽那諸島の離島振興の歩みに明るく光し

『稲の穂を 姫様捧げし 船踊り』

毎年、忽那諸島の魅力をみなさんにお伝えしている忽那ロマン探訪クルージング。今回は十月五日、土曜日、興居島の秋祭りの奉納行事である「船踊り」に日程を合わせ開催いたしました。

船旅から忽那水軍の覇権の広さを体感していただき、海上交通の中での水軍の働きを知っていたらこうと、広島県の倉橋島まで足を延ばした今回のクルーズ。目玉として用意したのは、興居島の伝統行事として船越和氣比賣神社に奉納される「船踊り」でした。しかし、どんなに抗っていても勝てないのはお天気。当日は朝からあいにくの雨模様となり、船内のガラス窓も拭いては曇りを繰り返し拭きましたが、徐々に好天に向かい、昼食の陸月島では傘なしの散策ができるほどに。しかし、興居島では再び雨が降り始め、「船踊り」の舞台である神社の境内には傘の花が咲き乱れ、後方の観客からは舞台の演者が見え隠れする残念な展開に…。「船踊りリピーター」が多かっただけに申し訳なく、「また次回を」とお願いした次第です。



島の応援団は、力強いリピーターの方たち

クルージングの締めは、釣島灯台外観と灯台官舎跡内部の見学。灯台を管理し、このクルーズ事業に助成を行っていただいている松山市教育委員会文化財課のお世話で、雨天のでも土足で建物内に入れるようあらかじめブルーシートを敷いていただいたり、懇切丁寧な説明をいただいたりし、参加者も大満足の様子。釣島町内会の協力で出店していただいたみやげ物店も大繁盛で、旅の最後を楽しく締めくめることができました。

あいにくの天候となった今回のクルージングではありましたが、参加者は大人百七名、子ども二名、幼児二名の計百十一名。協会スタッフが十二名、取材同行が二名でした。また毎回行うアンケートの結果からご報告。グループ参加が多いため、回収率は五十五%と今ひとつですが、アンケートによりまずと、六割強が「行ったことがないので参加したかった」と回答。まだまだ開拓の余地があることを暗示させるその一方で、四分の一の方は「島に関心があるから」と島の応援団を自認するうれしいお答えを。その他の自由意見を書いてくれたみなさんからは、「前回に船旅の楽しさを感じた」「島の歴史に興味」「海風が好き」など、リピーターとしての特出しの応援メッセージを送られ、主催者としてはかなり元気をもらうことができました。また、企画提案を伺ったところ、「江田島など広島県の島も訪ねたい」「一〜二島に絞ってゆっくりと過ごしたい」「宿泊型を希望」「魚や野菜を大鍋で炊いてみんなで食べたい」「各島の祭りや盆踊りなどにふれてみたい」など、参考になるご意見をたくさんいただきました。今後、文化財課事業として、またしまのわ事業としても、より魅力的なツアーを企画していきます。

写真家 浅田政志さんと行く忽那ロマン探訪クルージング

次回、松山離島振興協会が『瀬戸内しまのわ2014』で行うクルージングは、これまでの忽那ロマン探訪を基調路線としながらも、新たな側面を打ち出すデジタルカメラを駆使したツアー。今どきは一家に1台、携帯のカメラ機能など含めば家族で複数台を所有するデジタルカメラ。出来栄をその場で確認でき、いくら撮っても必要分だけを保存あるいはプリントすればよいその気軽さから、あっという間にフィルムカメラにとって変わったシロモノ。この手軽なカメラを持参するのが今回のツアーの特徴、もちろんカメラを駆使する場面があります。中島大浦で忽那水軍ゆかりのポイントや中島ならではの名所をたどり、それを写真に収め、獲得した合計得点を競います。豪華景品があり、盛り上がること間違いなし。それ以外にも忽那諸島の雄大な自然をバックに思い思いの写真撮るもよし、参加者同士撮りあいつこするもよし、季節の移ろいやみかんの花の匂いまで写し込んでいただきたいです。

そして、こうして仲良くなったメンバー全員で大集合写真を撮ることがこのツアーのもうひとつの目的。撮影は新進気鋭の若手写真家 浅田政志さん。この夏、NHKの番組で阿波踊り連を追いかけてらしたので、きっとご存知の方も。デジカメ持参のこのツアー、平成25年5月の連休明けの開催予定です。しまのわ記念の大集合写真に、ぜひあなたも写り込んでみませんか。



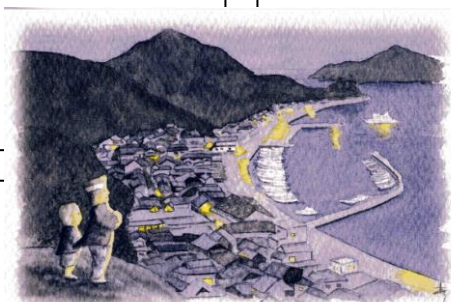
【地域産業部】

期待の『紅まどんな』が東京の大田市場を賑わし、それを野志市長がさらに売り込み、われわれ作り手はこの活気あるマーケットを停滞することなく稼働させるため、日々、昼夜を惜しんで作業に追われています。柑橘農家にとっては、今が一番のかき入れ時、一家総出の毎日が過ぎていきます。それもこれも、自分のこしらえた製品を「美味しい」と言ってくれるお客さんがあってのこと。「愛媛の、そして島嶼部のみかんが最高」と言っただけのようこれからも精進です。

《お問い合わせ・お申し込み》

事務局長 俊成雅直

TEL997-2189



【観光振興部】

今回の忽那ロマン探訪クルージングも中島汽船の「神和」を使用しました。乗り心地がよく、設備も快適で、船内放送もよく聞こえると評判ですが、喫水域の大きな船のためどうしても干潮には弱く、今回もいくらかの制約を受けてしまいました。こうしたツアーを行うときの難しい決断なのですが、船会社の人間としては、なによりお客様の安全が第一、極端な冒険はできません。参加のみなさんが、安全で安心な船旅ができるよう、日頃からの安全航行に努めてまいります。

《お問い合わせ・お申し込み》

理事 村上良二

TEL997-2038



【しまづくり部】

もうすぐ『瀬戸内しまのわ2014』が始まります。3月21日の宮島でのオープニングから10月26日のしまなみ海道での大サイクリング大会があるエンディングまでの7カ月間、わが興居島を含む忽那諸島にも、愛媛・広島県内外の注目が集まります。市内県内はおろか、広島や山口、岡山、京阪神からのお客様もお越しでしょうし、四国内の他県からも、首都圏からも観光客が大勢訪れることと思います。そこで島のおもてなしをいかにスマートに行うか。押し付けがましくない、さりげない接待に旅人は癒され、また訪れたいものだと思います。島四国のお遍路さんをもてなすように、興居島流のお出迎えができればと考える毎日です。

《お問い合わせ・お申し込み》

副会長 山本土人

TEL961-2237



忽那諸島の最新情報はHPチェックがいちばん！

<http://island-matsuyama.com/>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆